

かしま病院 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画について 2025年度

改善計画

分野	項目	具体的内容	2025年度目標	中間評価(9月)	最終評価
看護師	看護記録の業務効率化を図る	入院トラックシステムの導入により、バイタルサイン情報や体温、血圧測定のカルテへの自動入力	手入力による誤入力の防止および負担軽減を図る	実施	
入退院支援	患者サポート室に入退院支援課を設置	退院調整専従看護師および専任ソーシャルワーカーを配置し、退院調整を行う	入退院調整によりスムーズなベッドコントロールができるようにする	実施	
看護補助者	看護補助者の配置と活用	日直や夜勤時間帯への補助者の配置ができるようにする	定期的な採用活動を行う	なかなか採用に繋がらない状況	
クラーク	病棟および外来クラークの配置	病棟および外来にクラークを配置し事務的雑務を行う	病棟クラークは入院患者に対し入院に関するオリエンテーションを行い、外来クラークは初診時の予診を行う	実施	
	入院時の案内、患者説明	入院患者に対し、病棟クラークによる入院に関するオリエンテーションを行う	回りハ病棟入院患者向けに入院時オリエンテーションの動画を作成し、看護師が説明に要する時間を短縮し負担軽減を図る	実施	
薬剤部	薬剤部の協力	薬剤部による薬剤の一元管理	薬剤師が抗癌剤のミキシング、点滴の調剤、定数薬の管理を行う	実施	
	薬剤師による持参薬の管理	持参薬処方により自己管理が困難な患者を抽出し持参薬を再調剤する	持参薬処方を再調剤し、患者によって一包化調剤を行い管理しやすくする	実施	
	薬剤師による入院患者の薬の管理	調剤した薬をまとめた状態で病棟に払い出す	一包化調剤した薬をテープ等でまとめ、病棟での管理を容易にし負担軽減及び誤薬防止を図る	実施	
	薬剤師の病棟配置	病棟配置薬や調剤後の薬剤の管理を行い、薬剤が適切に準備されているかの確認、配合禁忌の確認等を行う	更に1名増員配置を検討し、効率化を進めていく	薬剤師不足により増員配置できていない	
検査科	検査技師との協力	病棟及び外来検体容器の管理	検体容器を一元管理する	実施	
	検査技師による外来採血	検査室で外来患者の採血業務を行う	処置室での採血を少なくし、負担軽減を図る	実施	
検査科	病棟検査技師の配置	病棟に検査技師を配置する	追加分の採血、自己血糖測定、SMBG測定器の手技指導、検査物品の管理、検査前日の説明・患者搬送などを行う	実施	
	検査技師による在宅検査	施設を訪問し検査実施	往診患者宅へ同行し、超音波や心電図等の検査を行う	実施	
	発熱外来時の検査実施	発熱等の感染拡大時は検査技師による検査を実施	検査技師との連携を継続し、これまで通り計画的に実施していく	都度対応	
ME科	MEの配置	医療機器の効率的な中央管理およびHDセンターの機器管理、内視鏡検査介助を行う	医療安全上の情報共有、機器の取り扱いの勉強会への参加により安全な医療行為の実施	実施	
多職種との役割分担の推進	栄養サポートチーム(NST委員会)の協働	栄養サポート(NST委員会)で介入を検討する患者の抽出とデータ提供	栄養士、STによるリハビリ等を目的とした食事援助、嚥下遅延者の食事介助などを行い、看護・介護職員の業務負担軽減を図る	都度対応	
	入院患者のパス導入	婦人科手術など入院パスによる情報の共有化	他の診療、手術等についてもパスを検討する	検討中	
	糖尿病サポートチームとの協働	外来、入院患者への指導を行う	外来での指導が出来る看護師の養成を検討する	検討中	
その他	妊娠・子育て中の看護職員への配慮	産休・育児休暇取得者24人 うち男性育児休暇取得者7名 (2024年度実績)	男性育児休暇についても取得しやすい職場づくりを推進し、働きやすい環境づくりを行っていく	現状保持	
	多様な雇用形態による看護職員の活用	育児休暇後の病棟での多様な働き方による看護職員の定着	育児休暇明けのスタッフへの配慮で、高い復職率を推進する	現状保持	
	院内託児所の設置	月極の他に災害時等、一時的に利用可能な保育を実施し働きやすい環境に努める	引続き働きやすい職場づくりを行っていく	現状保持	
	ハラスメントサポート窓口の設置	臨床心理士による心理カウンセリングと職員のメンタルヘルスケアの体制整備	職員の心身の健康維持及び増進を確保した環境改善に取り組む	現状保持	